



「路上詩人・書家のこーたさん」との表現遊び、楽しかったよ！！

こーたさんとの出会いは、昨年度末の3月に平田本陣記念館で開催された「まどみちおのうちゅう展」で、まどさんの詩をこーたさんが書いて展示され、そのオープニングセレモニーでまどさん作詞の「ぞうさん」などを園児が歌ったことから始まりました。6月28日にそのお礼として本陣記念館の方とこーたさんが来園され詩の贈呈式があり、こーたさんの書かれた『ぞうさん』の詩をいただきました。喜んだ園児は歌を歌ったり、こーたさんと記念写真を撮ったりしました。素敵な『ぞうさん』の詩を玄関に飾ったところ、子ども達が集まってきて、その詩を見ながら『ぞうさん』の歌を自然に歌い出しました。その姿を見て、「子ども達は、詩からこーたさんの感性を感じ取っているのではないかな。もっとこーたさんの感性に触れて、豊かな心を育む活動がしたい」と思いました。その後お礼かたがた、こーたさんにその思いを話してみると、子ども達との表現遊びをすることを快諾してくださり、ダメ元で話した私がビックリ！！強く願えば叶うこともあるんだなあ・・・とありがたく思いました。どんな風にすれば子ども達の自由でのびのびとした表現が引き出せるのか、お忙しい中、こーたさんは打ち合わせに何度も足を運んでくださいました。

そして、待ちに待った当日。子ども達は前日からとても楽しみにしていて、この日もテンションが高かったです。遊戯室で、まず、こーたさんの「書道パフォーマンス」から始まりました。大きな和紙と大筆を見て始まる前から子ども達は大喜び。「こーたさん、青色を使って」「どんなの書くの？」と大騒ぎです。こんなに賑やかでいいのかと、私は少し心配になりましたが、こーたさんは子ども達の声を聞き、雰囲気を感じ取って、書く言葉を決めたそうです。筆をもって、スッと一息入れたこーたさんを見て「あっ、こーたさんの顔が変わった！」と言った子がいました。スイッチを入れたこーたさん、そのまわりの空気が変わったのを肌で感じる事ができました。子ども達の希望通り、青を中心とした大きな丸を書き、その後、目の前の子ども達から感じた言葉を一気に書き出されました。最後に絵のような『楽』という独特の字で締めくくると、大歓声でした。

こーたさんのパフォーマンスで、子ども達の描きたい欲求はマックスとなり、早く描きたくてウズウズ状態でした。年長組と年中・年少組に分かれ、4m四方の大きな模造紙にクレパスやコンテ、サインペン、絵の具など好きな画材で好きなものを好きなように描き始めました。こーたさんの真似をしてグルグル丸を描く年少児、いろいろな色を使って何本も長い線を描いて楽しむ年中児、自分の顔や花、体験した海辺での遊びなどを描く年長児。どの子の目もキラキラと輝いて、「何かを描くって楽しい」「次は何を描こうかな」と心から湧いてくる思いが感じられました。少し描画活動や制作活動が苦手だったり、自分の思ったことを表現することに抵抗感がある子も、この日は思ったことをつばやいたり、「見て見てー」と言ったり、大喜びの表情でした。描いているうちに友達の絵に刺激を受けて、線路を書いている友達の近くで汽車を描いたり、線路の中に花を描いたり・・・自然に共同していく年長児の姿も見られました。

もう描くスペースもないくらい楽しく描いたので「終わりにしようか」と告げると「えーっ」と言う声。もっともっと描きたかったようです。最後にこーたさんの書と、みんなで描いた大きな絵の前で記念写真を撮りました。

今回の活動で、「こーたさんの感性を心で感じ取れたこと」「自由にのびのびと表現することの楽しさ、心地よさを感じられたこと」は、本当に嬉しい事でした。そして、私達教師も、子ども達の自由な表現意欲を引き出し、支えるために、感性を磨いていくことの大切さを感じました。

当日の降園時と翌日の登園時に、多くの保護者の方に作品を見ていただくことができ、たくさん嬉しい感想をいただきました。また、TSKのニュースやCATVで放映されたり、山陰中央新報や日日新聞にも掲載される

予定です。平田幼稚園の良さを知っていただく機会となれば嬉しいです。



その他にも・・・

○18日(金)は、さつま芋掘りをしました。長一いツルと綱引きをして引っ張った後、手で一生懸命掘って美味しくさつま芋が274個も取れました。(年長児が数えました)収穫祭やクッキングで美味しく食べたいと思います。

○19日(土)に出演予定だった「愛宕山公園どうぶつ祭り」は雨天の為ステージ発表が中止となりました。前日の朝連絡を受けましたが、そうとは知らない子ども達は「先生、踊りの練習しなくちゃ」と言ったそうです。やらされるのではなく、自分事として活動に取り組む気持ちが育っていることを感じました。